

★平成7年度前期委員総会報告★

副委員長 中村克宏

平成7年度前期委員総会が3月25日 18:00より片平市民センター会議室で開催されましたので報告いたします。

◆出席者：山本忠委員長

(代表委員) 石亀希男 酒井秀章 岡崎幸子

渋谷陽子 飯野雅(委任) 平井正光(委任)

鈴木謙一郎(委任)

(運営委員) 中村克宏 川口温弘 千葉鴻二

坂爪ミヤ 菅野志津子 和田美代子

(幹事) 伊藤一利 大賀延行 高橋龍夫

山本委員長より「10周年記念行事を行うにあたり、実行委員会を構成し、極力魅力のある行事を計画し、その実行にあたる所存であるので皆さんのご協力をお願いしたい。」旨の挨拶があり、引き続き以下の事項が審議されました。

(1)報告事項

①会員移動について菅野委員より報告。会員総数

339名。男子171名、女子168名となりその割合はほぼ半々にたった。

②室内ダブルス大会(キリSC 2/11,3/21)について川口

委員より報告。3/21に欠席者が4名出て、若干の赤字運営になったが、やむを得ず欠席される場合は補充の都合もあるので、出来るだけ早目に連絡いただけるとありがたいとの意見が運営委員より出されました。ご協力をお願いします。

③会報NO.19の発行について千葉委員より報告。4月15日発行を目処に関係各位に原稿執筆依頼中。

④故菊田絢子さんのご遺族より当連盟に対し寄付の申し出があり、これをお受けすることとし、使途等についてはご遺族とのお話をする事になりました。

(2)審議事項

①年会費について山本委員長より提案があり、原案通り以下のように値上げが了承されました。

個人会員;3000円：家族会員;4500円

②10周年記念行事についてその内容については「実行委員会」に委ねることを再確認し、代表委員諸氏のご意見をうかがいました。広く会員各位のご意見、企画をお待ちしております。

③平成7年度年間行事について川口委員より説明。原案通り了承されました。

④平成6年度決算案について坂爪委員より説明。原案通り了承されました。

⑤平成7年度予算案について坂爪委員より提案説明原案通り了承されました。

⑥酒井代表委員より「現行ではクラブ代表委員がその所属クラブの会員の意見を総括し、委員総会において発表し、連盟の運営に会員の意志を反映させることが難しい。規約の主旨は是としても、もう少し現実的に実行可能な方法はないか」との主旨の提案がなされました。「決議機関として、現行の委員総会にかわり、一般会員参加の総会形式にしたらどうか」等の問題提起もあり、山本委員長より「10周年を機会にし、連盟規約の見直しも必要と考えている」との発言がありました。

以上

決算書、予算書、年間行事予定については別項掲載の資料をご覧ください。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

■対いわきVTC親善試合を終えて■

川口 温弘

平成6年は、当連盟がいわきVTCを迎える年でありテニスコート宿泊等諸条件のよいところはないものかと、2,3の候補地をあげ、運営委員会で健闘の結果、蔵王町遠刈田温泉の町営のサン・スポーツランド蔵王のテニスコート会場として行うこととなりました。その間、関係者により2,3度現地に足を運び、テニスコート、宿泊の部屋および安全度、温泉の状況(内風呂、桧造りの町営浴場)、いかにすればより楽しくプレーしていただけるか等、きめ細かにチェックしてその準備の周到を期して計画いたしました。24日(土)の午後の練習には、ほとんどの方が参加され、本番さながらの練習とゲームが行われました。16時過ぎには、遠刈田温泉の大忠旅館に入り、宿の風呂で疲れを癒し、明日の親善試合に備えて英気を養いました。18時から大広間において懇親会が行われ、前年の覇者、いわきVTCに負けじと今回企画の「チャンケン大会」を盛り沢山の賞品を前にして、賑やかに、最初はゲー、ジャンケンポンと負けては相手を求め、勝っては拳をにぎりしめ負けた人からカードを一枚頂き、多くのカードを手にしようと、右に左に勝てそうな相手を捜し求めている姿は童心にかえったようで皆さんいい笑顔で楽しまれ、会は一気に盛り上がりました。その後即興で寸劇「七夕」を演じるナド余興を楽しみました。全館貸切でしたが予定時間オーバーのため明日の対戦に必勝を期して、三、三、七拍子で中占締めとしました。同大広間に二次会の場を設け、両陣

「より楽しいテニスを」

No.12 [VOLLEY for TWO & TEA for TWO]

高橋 龍夫

テニスを長く続けて楽しむための「コツ」の一つに自分の持っていない新しいテニスの「スキル(技)」を身に付けようと努力することだというお話を前に一度いたしました。たとえば、「今年はスライスサーブをおぼえて、セカンドサーブをもう少し威力のあるものにしよう」とか「ボレー、特にバックボレーが苦手なのでダブルスのゲームでは平行陣ができなくて、ベースライン付近でウロウロしていつもパートナーに申し訳ないわ。今年こそボレーをものにしないで」というように一年間に一つで結構ですから目標をつくり、練習をする、そして、少しでも目標とした技が身に付いてきたと感じる時のときめきに似た楽しさがテニスを楽しむ長続きして出来る「コツ」になるようです。新しい「技」を修得するためにテニススクールに入ることも考えられます。WEEKDAY交歓会の「プラチスタム」に参加することもいいでしょう。各クラブの練習会もチャンスです。しかし、テニススクールにしても練習会にしても練習内容は参加生の平均的なレベルで行われます。たとえば、自分はホオアハンドボレーはまあまあ出来るので、バックハンドボレーだけを基本から教わりたいなどというアラカルト特別メニューの注文はなかなか出来ないのが普通です。まして、壮年テニス連盟のみなさんの場合には、強い弱いは別にして、すでにゲームを楽しむだけの技術は十二分をお持ちの方々ばかりですから、スクール等の全くの初心者コースには入れません。

それではどうすればよいかがお話です。年齢別大会や技量別大会等でペアを組んだりWEEKDAY交歓会でゲームを楽しんだりして、すでに皆さんには仲の良いお友達がおいででしょう。この「友達」をゲームの時だけの「友達」にしないで、「個人練習」のための「友達」にもしてしまうのです。大体においてテニスの技量も総体的に同レベルの方々のお組み合わせが多いようですので事が巧く進むはずで、ボレー、特にバックボレーに苦手意識をお持ちの方が多く聞いておりますので今回はバックボレーを例にとってお話を進めて行きます。軟式テニスの経験があったり、比較的力強い人にも力強いボールが打てるからという理由から、あるいは、最近のテニスの傾向とも相俟って厚めにラケットを持つあるいは握る方が多いようです(ホールドストローク)。ボレーの苦手な方の多くはこのラケットの握りのまま、ボレーをしていますか。厚めにラケットを握っているために構えた時のラケットはトップが上にくる、いわゆるラケット立て型になってしまいます。この構えの良いところは、ネットにぴたりとついた場合、「蠅叩き方式」でラケットのオモテ面だけを使ってフラットな力強いボレーが出来るということです。軟式テニスの前衛のボレーです。しかし、テニス(硬式)のようネットからやや離れて並行陣をとることが多い場合には全く不向きな「握り」なのです。お解りのように、ネットより低い位置でのボレー、

それも体から遠い位置に飛んでくるボールをホア、バックの区別なくボレーするためにはラケットのトップをやや下げて、両面を使うことの出来る「握り」にしなければなりません。また、ボールを低い位置からネットを越して相手のコートに運ぶためにはバックスピンのいわゆるスライスボールが有効です。このボレーをするためにはラケットの両面でボレーが出来、ボールにバックスピンのかかる「薄い握り」にしなければなりません。この「薄い握り」もリストの強さ、指の強さ、手の大きさ等に個人差があり、一概にこれだ!という定番はありませんが、要はラケットの両面を使ってホアハンドとバックハンドボレーが同じ感覚でできる握りであればよろしいのです。さて、ラケットの握りをうすくしてみました。いままでの厚い握りの時に比べて、力が入りにくく、ラケットにあたったボールが上の方に飛んでいってしまう様な不安感がありませんか。このさあ、今からが「友達」の登場です。貴方は「薄い握り」でラケットを持ち、バックハンドボレーをする構えをして下さい。ラケットは地面と水平になるぐらいにヘッドを下げて、右手を真下にかかるく伸ばしましょう。右手の甲とラケットの面が同じように20~30度の角度をもって上方向を向いており、面の位置は体の左前になっていますね。両足は肩幅ぐらいに開き左足をややひきかげんにし、膝をかるく曲げてバネが利く状態にしておきましょう。さて、「友達」をお願いをして2~3m離れた位置からボールを下からトスをするように貴方のラケットの面に向かってほうってもらいましょう。最初は緩やかでボールに回転を加えないよう、生卵をほうるような感じで投げてもらいましょう。近くからですからボールはかまえた貴方のラケットの面に間違いなく飛んできます。ボールをよく見て、ラケットの面を上向きのままにしてラケットを押し出す感じで打ち返して下さい。この時注意をすることは、ラケットをしっかりと握り、相手が投げてくれたと同じく程度の緩やかなボールがかえるように心懸けてください。そして、投げてくれた「友達」の右手の位置に向かってボールが飛んでゆくようにします。最初はボレーしたボールがいろいろな方向に飛んでしまいましたが、10球、20球と打つうちにだいたい思った方向に飛ぶようになります。慣れてきましたら次はボールに意識的にバックスピンをかけてみましょう。ボールは自分が考えているよりはるかに上の方に飛ぶこととなりますが、これも20~30球打つ間に、スピンのかけ具合とボールの上方への飛び具合の関係が掴めかけてきます。ここまで来たらもうしめたものです。そろそろ右手の手首が疲れてきました。さあ、今度は貴方がボールをトスし、「友達」がボレーをする順番です。ここまでの練習はコートの中でなくても出来ます。ゲームの順番を待つ間にコートサイドでも出来ますし、雨天や強風時、あるいは夜間にだって貴方の家の中でも出来るとおもわれます。新しい「技」の修得は正しい方法で何回も同じ動作を繰り返し、「カラダ」に憶えさせることにあるといわれています。「なんだかバックボレーが出来る感じだわ。」となってきましたらコートにはいつか次の段階の練習です。これ以後**

